

開催にあたり ～主催者からのメッセージ～

今年も、第3回目となる『区民・議会・行政 協働/板橋フォーラム』を開催します。

多様な立場の方々が参加し、現状と課題を共有し、対話を通じて縦割り社会を横につなげ、協働できるしくみと関係性をつくり、よりよい地域・社会を築くためです。

いま、板橋区では最上位計画であり各種の計画策定・予算編成・事業実施の基盤となる「新しい基本構想と基本計画」の策定が進められています。「20年後の板橋区をどうするのか、どうしたいのか」を描き、これを具体化する手段の作成です。今年度、当フォーラムでは同構想・計画の策定を取り上げ、“協働”“自治”をからめて意見交換を行います。

立場を超えての“参加”と“対話”は協働の第一歩です。

今回の講師は、常に次代を見据ながら言動し、今という時代へのトータルな代替案を持つ田中秀征氏です。

またシンポジウムには先進地から東京都市区長会会長も務める石川稲城市長、板橋区から政策立案調整の取りまとめ役の政策企画課長、区民代表である議会から与野党双方の議員、学識経験のある長期基本計画審議会委員に登壇いただき、自治体運営の現状と課題、その解決策について論を交わします。

“新しい自治”。その文化は、新しい一歩と試行錯誤の繰り返しの中から創られていきます。

このチラシを手にした一人でも多くの方々のご来場をお待ちしております。

特別講演



●プロフィール

1940年長野県生まれ。東京大学西洋史学科、北海道大学法学部卒。1983年衆議院議員当選、1993年新党さきがけを結成、代表代行。細川内閣の発足に伴い内閣総理大臣特別補佐。第1次橋本内閣で経済企画庁長官。1999年一般の方々を対象に「民権塾」を開塾し、塾長として質実国家、民権政治を提唱。TBSサンデーモーニングコメンテーター等としても活躍。

●主な著書

『田中秀征の論跡』（近代文芸社）、『官権と民権』、『時代を視る』（ダイヤモンド社）、『舵を切れ—質実国家への展望』（朝日新聞社）

講師 田中 秀征氏

（福山大学教授・元経済企画庁長官・「民権塾」主宰）

第2部シンポジスト紹介

石川 良一 氏（東京都稲城市長）

1952年東京都稲城市出身。

1981年早稲田大学社会学部卒業。民間企業、米ニューヨーク州での空手指導を経て1983年より稲城市議会議員(2期)。

1991年稲城市長当選。現在4期目。東京都市区長会会長、全国青年市長会顧問。

■石川市長と稲城市の取組み

当事業はシンポジストとして、毎年、先進地から首長をお招きしております。本年度は市長13年のキャリアをもち、この間行政の構造改革を積極的に推し進めてきた実績を持つ東京都稲城市の石川市長です。市民から要請があれば随時懇談する「市民懇談会」の制度化。全国初の全職員対象とした期末勤労手当（ボーナス）の成績評価支給制度の導入。自らの綱紀粛正として妻子を含めた市長の資産公開とチェック機関を併せて設置する条例の制定。

また環境への取組みにも力を入れ、ゴミと資源の13分別収集化、市民が主体となつての公園整備事業やビン・缶・タバコのポイ捨て防止のための「まちをきれいにする市民条例」等々。経験に基づく具体例と、4期目にしてなお衰えることのない市政運営に懸ける強い意志の一端に学ぶことは少なくないはず。

山内 金久 氏（板橋区議会議員）

1948年青森県出身。1983年区議当選。都市建設委員長、区民環境委員長、監査委員、農業委員等を歴任、現在6期目。日本共産党板橋区議団団長。日本共産党所属。

茂野 善之 氏（板橋区議会議員）

1947年板橋区出身。生業である米屋を営む一方、町会活動に積極的に参加し、地域活性化・青少年健全育成活動に取組む。2003年板橋区議会議員当選。自民党所属。

中井 検裕 氏（板橋区長期基本計画審議会会長代理）

1958年大阪出身。東京工業大学大学院社会理工学研究科教授。行動派の工学者として行政その他各種の協議会、審議会等に係わる。工学博士。

大迫 俊一 氏（板橋区役所政策経営部政策企画課長）

1954年東京都出身。1980年板橋区役所入区。企画部電子電算課、児童部保育課、赤塚・板橋福祉事務所長、保健サービス課長、国民健康保険課長等を経て2003年より現職。